

# 第43回全国豊かな海づくり大会 基本構想

## 1 大分県の水産業

大分県は、九州の北東部に位置し、豊予海峡を境として北は瀬戸内海、南は豊後水道に面し、九州本土最高峰の中岳を含むくじゅう連山や、県内全域で温泉が満喫できる、源泉数・湧出量ともに日本一の「おんせん県」であるなど、豊かな自然環境に恵まれています。

瀬戸内海沿岸は、広大な干潟を有する豊前海や一級河川の大野川と大分川が流れ込む別府湾や豊後灘など多様な漁場で構成され、小型底びき網や刺し網、船びき網などを主体として、エビ類、マダイ、サワラ、シラスなどを水揚げしているほか、干潟域や内湾を利用したカキ養殖も盛んです。

一方、豊後水道は沿岸域がリアス海岸で形成される生産性の高い漁場となっており、まき網や定置網、一本釣りなどを主体として、アジやサバ、イワシをはじめとした多種多様な魚介類を水揚げしています。また、静穏域が多い海岸地形を利用して、生産量全国1位のヒラメ、2位のブリをはじめとして、クロマグロ、シマアジなどの魚類養殖業や貝類養殖業が盛んに行われています。

内水面では、九州で漁獲量1位のアユをはじめとした河川漁業のほか、ドジョウやスッポンなどの養殖業も営まれています。

全国の高級ブランド魚の先駆けである「関あじ関さば」をはじめ、「城下かれい」、「姫島車えび」、県の特産品であるカボスを餌に混ぜて育てた「かぼすブリ」、「かぼすヒラメ」などの魅力あるブランド水産物が多く存在し、複雑な海岸線により地域毎に多様な水産物が水揚げされています。

このような地域の特徴に根ざした多種多様な漁業は、四季折々の豊かな水産物を県内外に供給することはもちろん、水産加工品の原料や、観光資源としての利用など、本県の産業振興に重要な役割を果たしています。



(関あじ・関さば)



(かぼすブリ)

## 2 開催意義

### (1) つくり育てる漁業をさらに推進していく絶好の機会

「全国豊かな海づくり大会」の第1回大会は、昭和56年に皇太子同妃両殿下をお迎えし、全国に先駆けて、本県の鶴見町(現:佐伯市鶴見)松浦漁港で開催されました。

大会を契機として、漁業関係者が一丸となり栽培漁業の推進や小型魚の漁獲規制、県下一斉休漁日の設定、環境に配慮した養殖業の振興などの取組が積極的に行われてきました。また、これらは水産資源が生育する環境を保全するための藻場造成や海岸の清掃、森林から川や海へのつながりを意識した植樹活動などの取組とあわせ、40年以上が経過した現在も技術向上などにより発展的に継続され、水産資源の保護・管理と環境保全の大切さは多くの漁業者の意識に根付いてきています。

一方で、水産資源の減少は続いており、それに伴う担い手の減少や高齢化の進行、消費者の魚離れなど水産業を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。

本大会は、第1回目の開催県として、本県の漁業関係者のこれまでの努力とこれからの挑戦を県内外に広くアピールし、水産業についての理解と関心をさらに深めてもらうとともに、つくり育てる漁業の要である種苗生産施設(大分県漁業公社国東事業場)のリニューアルと相まって、さらなる取組を推進する絶好の機会となります。

### (2) 環境保全の重要性を訴える貴重な機会

ふるさとの豊かな海を守っていくためには、栄養豊富な水を生み出す森林と、その水を海へ供給する河川の環境を保全していくことも重要です。また、国際的に大きな問題となっている海洋プラスチックゴミや地球温暖化による海洋環境の変化などの新たな課題に対しては、漁業者だけでなく消費者も含めた国民全体で取り組むことが不可欠です。第2回目の大会は、環境保全の重要性を広く訴えかけていくことのできる貴重な機会となります。

### (3) 水産物の消費拡大と「おんせん県」の新たな魅力を発信できる機会

国内の水産物消費の減少が続く中、本県では消費拡大に向けて、お魚料理教室の開催や学校給食への利用促進、家庭で手軽に食べることができるレシピの開発などの魚食普及に取り組んでいます。大会は、これら魚食普及に一層取り組んでいく契機になるとともに、本県の豊かな海や川で育まれた多様な水産物の味力<sup>みりょく</sup>を県内外に広く発信する機会となります。

また、県内で展開されている新たな取組である、航空機を利用した人工衛星の打ち上げ等、アジア初の水平型宇宙港としても活用が期待される大分空港や日本唯一の海上交通であるホーバークラフトの復活などについても「おんせん県おおいた」の新たな魅力として、令和6年春のデスティネーションキャンペーンとあわせ、全国に広く発信する機会となります。

### 3 基本理念

大分県の豊かな海や川を次代へ引き継いでいくため、つくり育てる漁業に一層取り組むとともに、それらを育む自然環境を守っていくことの重要性を県内外へ広く訴えかけます。

また、四季折々の味力あふれる多様な水産物に加え、「おんせん県おおいた」の新たな魅力を全国へ広く発信していきます。

### 4 基本方針

#### (1) 水産資源の保護と管理の一層の推進

水産資源の維持・増大を図り、「生産者の挑戦と努力が報われる漁業」の実現に向け、令和5年度にリニューアルする大分県漁業公社を核に、つくり育てる漁業をさらに推進するための大会とします。

#### (2) 森から川、海へとつながる豊かな自然環境の保全

森から川へ、川から海へとつながる自然環境や藻場造成などによる良好な沿岸環境の保全とともに、近年、国際的に大きな問題となっている海洋プラスチックゴミや地球温暖化などの環境問題に取り組むことの重要性について県内外へ広く訴えかけることで、本県の豊かな海や川を次代に引き継いでいく大会とします。

#### (3) 四季折々の多様な水産物の消費拡大

「関あじ関さば」、「城下かれい」、「かぼすぶり」、「姫島車えび」などのブランド水産物をはじめ、本県の海や川で生まれた四季折々の多様な水産物の味力<sup>みりょく</sup>を県内外へ発信し、消費拡大を図る大会とします。

#### (4) おんせん県の新たな魅力を全国に発信

「宇宙港」としての発展が期待される大分空港、日本唯一の海上交通であるホーバークラフトの復活など本県では地域の活性化に向けた新たな取組を次々と展開しています。令和6年春のデスティネーションキャンペーンとあわせて、新たな魅力を全国に発信する大会とします。

## 5 大会の概要

(1) 名称 第43回 全国豊かな海づくり大会 ～おんせん県おおいた大会～

【参考】先催県の大会名称について

第41回全国豊かな海づくり大会 兵庫大会～御食国ひょうご～

第40回全国豊かな海づくり大会 ～食材王国みやぎ大会～

第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会

第38回全国豊かな海づくり大会 ～高知家大会～

(2) 主催 豊かな海づくり大会推進委員会  
第43回全国豊かな海づくり大会大分県実行委員会

(3) 開催時期 令和6年秋季(土曜・日曜日の2日間)

(4) 開催場所 ・式典行事 : iichiko グランシアタ(大分市)  
・海上歓迎・放流行事 : 別府港第4埠頭(別府市)

(5) 行事内容 ①式典行事  
功績団体の表彰、最優秀作文の発表、漁業後継者の意思表示、  
大会決議など  
②海上歓迎・放流行事  
漁船などによる海上歓迎パレード、種苗(稚魚)放流など  
③歓迎レセプション  
本県農林水産物の食材によるおもてなしなど  
④関連行事  
各種コンクール優秀作品の展示、企画展示・特産品販売など

(6) 大会テーマ等 公募により決定